

小田原市市民部地域政策課
〒250-8555 小田原市荻窪 300
☎(0465) 33-1725

男女共同参画社会

未来に向けて

男女共同参画社会基本法の制定から丸10年という節目を迎え、前号でこれまでの歩みを振り返りました。今号では現状、そしてこれから目を向け、20代30代の人たちには、男女共同参画社会という考えがどのように浸透して来ているのかを取り上げてみました。

育休による長いブランクが復職を難しくするかもしれない」という不安を受け止め、妻に代わって伴さんが育児休業を

取ることになりました。会社側も伴さんの気持ちを理解し、育児休業が認められました。第2子が誕生し、妻の産休が終わると伴さんの育児休業がスタートしました。上の子の保育園の送迎、家事全般、また妻の昼休みに下の子を会社に連れて行って授乳させることもありました。約7か月で仕事復帰した後は、子どもの環境変化への慣らしのため、短時間勤務制度を利用して、2時間早く退社して保育園に迎えに行きました。

育休休業の感想は、「子どもの成長を肌身で感じることができ、子どももよくなつてくれた感じがします。自分は以前から家事をしている方だと思っていだけれど、実際全てやってみると一息つく間もなく、女性が働きながら、なお家事も育児もという大変さが分かりました。保育園の送迎は、毎度抱っこをせがまれ相当な力仕事でした。パパ送迎は、クラスの2割くらいと、育児に参加しているパパは意外に多いなと感じました。また、「育休を取るか悩んでいる男性がいたら何とアドバイスしますか?」という質問には、「家計など事情も環境も違つので、夫婦で良く話し合つて決めて欲しいです。ただ、そういう権利があることは知っておいた方がいいと思います」とのことでした。



イクメン育休をとる!
子育てを積極的に楽しむパパ



富士フイルム(株) 伴 聡さん

育休休業の感想は、「子どもの成長を肌身で感じることができ、子どももよくなつてくれた感じがします。自分は以前から家事をしている方だと思っていだけれど、実際全てやってみると一息つく間もなく、女性が働きながら、なお家事も育児もという大変さが分かりました。保育園の送迎は、毎度抱っこをせがまれ相当な力仕事でした。パパ送迎は、クラスの2割くらいと、育児に参加しているパパは意外に多いなと感じました。また、「育休を取るか悩んでいる男性がいたら何とアドバイスしますか?」という質問には、「家計など事情も環境も違つので、夫婦で良く話し合つて決めて欲しいです。ただ、そういう権利があることは知っておいた方がいいと思います」とのことでした。

育休休業の感想は、「子どもの成長を肌身で感じることができ、子どももよくなつてくれた感じがします。自分は以前から家事をしている方だと思っていだけれど、実際全てやってみると一息つく間もなく、女性が働きながら、なお家事も育児もという大変さが分かりました。保育園の送迎は、毎度抱っこをせがまれ相当な力仕事でした。パパ送迎は、クラスの2割くらいと、育児に参加しているパパは意外に多いなと感じました。また、「育休を取るか悩んでいる男性がいたら何とアドバイスしますか?」という質問には、「家計など事情も環境も違つので、夫婦で良く話し合つて決めて欲しいです。ただ、そういう権利があることは知っておいた方がいいと思います」とのことでした。

育休休業の感想は、「子どもの成長を肌身で感じることができ、子どももよくなつてくれた感じがします。自分は以前から家事をしている方だと思っていだけれど、実際全てやってみると一息つく間もなく、女性が働きながら、なお家事も育児もという大変さが分かりました。保育園の送迎は、毎度抱っこをせがまれ相当な力仕事でした。パパ送迎は、クラスの2割くらいと、育児に参加しているパパは意外に多いなと感じました。また、「育休を取るか悩んでいる男性がいたら何とアドバイスしますか?」という質問には、「家計など事情も環境も違つので、夫婦で良く話し合つて決めて欲しいです。ただ、そういう権利があることは知っておいた方がいいと思います」とのことでした。

育休休業の感想は、「子どもの成長を肌身で感じることができ、子どももよくなつてくれた感じがします。自分は以前から家事をしている方だと思っていだけれど、実際全てやってみると一息つく間もなく、女性が働きながら、なお家事も育児もという大変さが分かりました。保育園の送迎は、毎度抱っこをせがまれ相当な力仕事でした。パパ送迎は、クラスの2割くらいと、育児に参加しているパパは意外に多いなと感じました。また、「育休を取るか悩んでいる男性がいたら何とアドバイスしますか?」という質問には、「家計など事情も環境も違つので、夫婦で良く話し合つて決めて欲しいです。ただ、そういう権利があることは知っておいた方がいいと思います」とのことでした。

育児休業制度とは?

育児休業制度は、育児をしながら働く人が仕事と家庭を両立できるよう、平成4年にスタートしました。女性だけではなく、男性も取得できます。育児・介護休業法では、「子が1歳に達するまでの間(子が1歳を超えても休業が必要と認められる一定の場合には、子が1歳6か月に達するまで)、育児休業をすることができる」と定められています。一定の場合とは、保育所の申し込みをしたけれども入所できない場合や、配偶者が病気などにより子を養育できなくなった場合など。法律で義務化されているので、会社に制度がなくても権利を行使することができ、会社がそれを理由として解雇や不利益な取り扱いをすることは禁止されています。申し出は、休みたい日の1か月前までに書面で行います。企業によっては、「子どもが満3歳に達するまで」など、法律を上回る内容の制度を定めていることもあります。

厚生労働省の調査によると、共働きの夫婦が多くなっている中、出産後も仕事を続けたいと思っている女性は増えていますが、実際には約7割が第1子出産を機に仕事を辞めています。

また、男性の約3割が育児休業を取りたいと考えていますが、実際の取得率は1%台です。男性が家事や子育てに費やす時間も、1日1時間(うち子育ては30分)で先進国中最低の水準となっており、その分、女性に子育てや家事の負荷がかかっています。女性側に偏る負荷を解消し、子育てしやすい環境整備を進めていくためには、父親の働き方の見直しや子育てへの積極的な関わりが不可欠です。

改正育児・介護休業法では、父親も子育てができる働き方の実現を目指し、父母ともに育児休業を取得する場合の取得可能期間延長や、労使協定による専業主婦(夫)取得除外規定を廃止し、配偶者が専業主婦(夫)や育児休業中であっても、育児休業を取得できるようにしています。

育児・介護休業に定められている両立支援制度

- (1) 育児休業制度
- (2) 子の看護休暇制度
- (3) 時間外労働の制限
- (4) 深夜業の制限
- (5) 勤務時間の短縮等の措置
- (6) 不利益取扱いの禁止
- (7) 転勤についての配慮

PURPLE-RIBBON PROJECT



パープルリボン・プロジェクトとは、紫色のリボンを身につけることで、DV(ドメスティック・バイオレンス)について関心を持ってもらい、被害者たちに勇気を与える運動です。1994年、アメリカのニューハンプシャー州の小さな町で生まれた草の根運動で、現在では世界40か国に広がっています。日本では2000年に取り組みが始まりました。

【パープルリボンの基本理念】

- 1 暴力は、生まれつき暴力的な人がいるのではなく、今までの人生で学んでしまった行動パターンです。
- 2 暴力は人々が我慢することで広がります。
- 3 暴力を許さない人が増えれば、それだけ暴力を減らすことができます。
- 4 パープルリボン・プロジェクトは、人々が暴力に怯えないで安心して暮らせる社会を目指します。

小田原市内を中心に活動している登録女性団体の相互の交流と、情報交換を目的に開催している女性団体代表者会議(現在49団体登録)では、今年度「DV防止」をテーマに取り組み、DV根絶を願う意思表示として、パープルリボン活動を展開しました。各団体でパープルリボンを作成し、リボンを身につけたり、配布したりして啓発活動をしました。

女性団体の中からは、「DVという問題を、なかなか自分の身近に感じられない」という声もありましたが、女性団体代表者会議としては、パープルリボンによる地道な啓発活動に意義があるとし、23年度も引き続きDV防止に向け、パープルリボン・プロジェクトを継続することが決まりました。

パープルリボンをつけよう

それぞれの風

今号では、共によく耳にする「イクメン」と「DV」を取り上げました。それぞれに関わる夫婦関係を思うと、相反する印象を受けます。

夫が育児を取っても取らなくても、妻が働いていてもいなくても、子どもの送り迎えや食器洗い、オムツ換えなどできることをさりげなく行う男性が増えていくことはすてきなことです。「夫は仕事、妻は家庭」と限定せず、共に協力して生きていく。そういう夫婦関係は、お互いに相手への思いやりや信頼があつてのことだと思えます。

「イクメン」が一過性のブームではなく、これからも長く続くムーブメントであれば、平等な男女関係により近づき、「DV」という問題も減っていくのではないのでしょうか。

一人一人が変化の風を起こし、少しずつ「男だから」「女だから」という壁を取り払って、もっと自分らしい生き方を選ぶことができる社会にしていきましょう。

編集員のひとりごと…

お

- 小田原に住んで30年。潮騒と緑に囲まれたこの街から、今後も新たな息吹を発信できたらいいと思います(R)

だ

- 好きな事を一生懸命やっているとすてきな出会いが巡ってきます。おだわらの風もそんな場所でした(T)

わ

- わが家では夫は仕事、妻は家庭。今や少なくともきてきている専業主婦の私の生き方はいかに?(Y u)

ら

- らしく生きることの大変さすてきさを感じました。誰もが「~らしく」生きられる小田原に!(Y o)

風

- 風の編集に参加して、出会ったたくさんの人にありがとう(M)